



徳島大学の改革プランについて —シンギュラリティーの彼方へ—



徳島大学長 野地 澄晴

徳島大学は、今年度から第3期中期目標・中期計画の期間（平成28年度～33年度）に入り、6年間の大学の方向性について議論し、大学改革プランを作成しています。大学改革プランの副題を「シンギュラリティーの彼方へ」としました。シンギュラリティーとは、数学では特異点と訳され、例えば $y=1/x$ の $x=0$ の点つまり $y=\infty$ に対応します。人工知能 (AI) 分野では、「AIの能力」＝「ヒトの脳の能力」の点に対応するようです。既に、AIによる疾病診断が実際に行われています。大学においては、運営費交付金=0の点です。徳島大学の現在の運営費交付金は約120億円ですが、平成16年の法人化後、毎年1%以上削減され、既に40億円以上削減されて現在に至っています。このような状況において、徳島大学だけでなく、多くの大学が財政難に陥っており、物件費の削減だけでは対応できず、人件費の削減も行っています。今後も経費削減はもちろん行いますが、それだけではいつまでも削減を続けなければなりません。そこで、徳島大学は外部資金を増加させる方法を検討してきました。それが、「シンギュラリティーの彼方へ」の一つです。主な改革のポイントは2つです。

1つ目は、(1)大学のレベル引き上げです。大学の世界ランキング(Times Higher Education)によると、徳島大学は現在601～800位ですが、このランクを10年後には100位以内に上げることで、現在100位以内の日本の大学は、東京大学と京都大学だけですから、ハードルの高い目標です。この目標を達成するためには、

持続的に外部資金と海外からの留学生数を大幅に増加させる必要があります。特に、大学院博士課程の留学生を増加させることが、ランクを上げるために必要です。

2つ目は、(2)一般社団法人大学支援機構の設立です。国立大学法人は、直接営利企業を運営することはできませんが、非営利団体たる一般社団法人であれば、大学が運営に関与することができ、収益を上げることが可能です。そこで、大学支援機構では、クラウドファンディングとクラウドソーシングを行い、大学が人々を支援し、人々が大学を支援するシステムを構築することを計画しています。クラウドファンディングでは、大学の教育、研究、社会貢献などに関するプロジェクトを多くの人々にアピールし、例えば10万人の人々に千円ずつご支援いただければ、1億円の支援金になります。多くの人々のご支援を得るためには、多くの人々の問題を解決するプロジェクトであり、多くの人々に興味を持っていただけるプロジェクトであることが要求されます。どうか皆様も、このシステムを資金集めなどにご利用いただき、また、大学のプロジェクトもご支援いただきますようお願い申し上げます。



睦眉会の皆様へ

睦眉会の皆様、日ごろは本学の教育研究についてご理解とご支援を賜り、本当にありがとうございます。睦眉会の会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。平成25年4月に、学科長を拝命し、現在2期目の1年6カ月を迎えました。ご報告と今後のさらなるご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

今年4月に野地学長が就任され、「本学の強みを生かし、『人類の問題を地域から解決する大学』として、10年後には世界topレ

徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学教育部長

近藤 和也



ベルに入る大学になることをめざしています。」をスローガンに大学改革が加速していきます。保健学科・保健科学教育部も現在、**地域医療に貢献できる高度専門職医療人**や**国際的に活躍できる研究者教育者**の育成する体制を構築しています。

国家試験の合格率（H23年～H27年）は、開学以来全国平均に比べて高い水準を維持し（看護師：97-100%、保健師：94.2-

100%、助産師：100%、診療放射線技師：80.6-97.4%、臨床検査技師：88.2-100%）、卒業後就職を希望する学生は、100%就職することができ、全国で活躍しています。保健科学教育部は、10年前に大学院博士前期（修士）課程、8年前に大学院博士後期課程が設置され、今までに180名が修士号（保健学修士86名、看護学修士94名）、24名が保健学博士号を取得しています。

地域医療に貢献できる高度専門職医療人の育成では、①看護学領域は、2007年からがん看護専門看護師養成科目を開講（高度がんプロ養成基盤プログラム）し、がん看護専門看護師に6名が認定されています。2012年から助産学実践コースを設置し、助産実践力に卓越した人材育成を推進し、22名の学生が修士号を取得しました。2009年から看護教諭専修免許の取得が可能となり、9名が取得し、正規採用教員として就職しています。2015年から脳神経専門看護師の養成科目を開講しています。②医用情報科学領域では、2007年から医学物理士の養成科目を開講（高度がんプロ養成基盤プログラム）し、医学物理士に1名が認定されています。③医用検査学領域では、胚培養士、超音波検査士取得支援プログラムがあり、胚培養士に3名が、超音波検査士に2名が認定されています。さらに、保健学科と大学病院の連携を密にしていきます。徳島県・四国内の病院の保健医療学系医療従事者の指導者となる人材を育成するとともに共同して四国の医療の発展に寄与する体制を構築していきます。2015年2月から地域医療人材育成分野（寄付講座）が設置され、看護師出

身の教授と助教が任命され、四国中央病院と提携し、地域医療に貢献できる看護師を育成しています。

国際的に活躍できる研究者・教育者の育成では、現在、フロリダ・アトランティック大学（FAU、米国）、テキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンター（米国）、メトロポリア応用科学大学（フィンランド）と学術交流協定を締結し、毎年学生が交流しています。さらに、St. Paul University Philippines, Philippines、Prince of Songkla University, Thailand、University of Sumatera Utara, Indonesiaと学術協定を結ぶ準備をしています。2014年、9月にロクシン教授（前FAUの教授）が看護技術学の教授として着任され、学部にinternational nursing basic course（アメリカの看護師免許の取得とアメリカの看護大学への留学のための授業）を作り、19名の学生が勉強をしています。徳島大学内の7つの教育研究クラスターでは、保健科学教育部の各分野が共同研究を推進しています。徳島大学大学院医歯薬学研究部の立地条件を生かし、高度専門医療人と研究者を教育し輩出していく決意です。

2021年（東京オリンピックの翌年）は『保健学科設立20周年』です。先日睦眉会の代表のメンバーと懇談させていただき、20周年のイベントを協力して推進していこうとご理解をいただきありがとうございます。同窓会の皆様には、今後さらに徳島大学医学部保健学科および大学院の将来に関心を寄せていただき、ご支援・ご高配をいただけますようお願いいたします。

大学改革と同窓会

徳島大学は文部科学省が進める「大学改革」に対処し、全学で生き残りをかけたプロジェクトを推進しようとしています。現在の大学法人運営費交付金は約120億円で、16年の法人化以降毎年1%以上減額され総額40億円以上の削減となっています。

知能集団で教育研究機関かつ特定機能病院を持つ徳島大学が、今以上に社会貢献を果たして社会的評価を得なければ、大学としての存在価値は有りません。その為にも、経営の安定と職員のモチベーションの維持・向上は必須だと言えます。しかしマイナス材料の環境で相反する課題の解決は、非常に厳しいと言うしかありません。

報道では、徳島大学が一般社団法人・大学支援機構を設立し学内や他大学研究者の研究費を募る他、学外の人々が地域の課題を解決する為に資金集めの際にも活用してもらう事業を行うとあります。運営は徳島大学の役員等が資金を出し合って基金を設け運営します。クラウドファンディングとクラウドソーシングで事業を進めていきます。運営費交付金が毎年減少していく事態への対処として外部資金の確保と研究費を得られ、研究内容や大学の取組を社会にPRする



徳島大学睦眉会会長 河田 明男

徳島大学医学部附属診療放射線技師学校3期生



機会にも成ると期待されています。

また苛原学部長の言では、少子化で18歳人口減少の時代に入学生定員を満たさぬ大学は淘汰され退場となります。これからは受験生に選ばれる大学でなければならず、加えて運営費交付金が減額され続ける中での運営は難しいものがあると述べています。徳島大学を冷静に見て、身の丈に合った改革の推進が重要でしょう。アイデンティティを失った大学には全く魅力が無く、必ずや受験生にそっぽを向かれるでしょう。大学の存在意義は知の蓄積にあり、将来に繋がる自由な発想や方法で教育・研究が行われる場であり続ける事にあります。その為には明確な方針を立て作戦を練る必要があり、集中と選択に基く管理運営が期待されます。学問の府であり続けるために何を為すべきかを教員、職員、学生の全てが考える事であり、その様な意識を醸成する事が肝要でしょう。

学長をはじめとする理事者、苛原学部長の考えや具体的処方を目にするにあたり、睦眉会も大学と卒業生を繋いで大学の発展に寄与する、何らかのアクションを起こしていければと考えています。

第11回睦眉会主催講演会報告

徳島大学睦眉会理事
 徳島大学医学部附属助産婦学校33期生
 徳島大学大学院医歯薬学研究部

竹林 桂子

平成28年7月3日に開催された第11回睦眉会主催講演会では、徳島城博物館館長の瀧山雄一先生をお招きして、「阿波の人形浄瑠璃」のご講演をいただきました。阿波人形浄瑠璃は、徳島の有名な郷土芸能の1つであり、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。その歴史は



古く、享保年間には徳島に人形座が存在したと考えられています。徳島には、人形忠・天狗久といった優れた人形師がおり、阿波人形浄瑠璃は、大振りで艶のある頭の人形が特徴的です。当時、人形浄瑠璃は庶民の娯楽として人気があり、寺社の境

内に設営された農村舞台上で上演されていました。今も、犬飼の農村舞台（徳島市八多町）や坂州の農村舞台（那賀郡那賀町）で人形浄瑠璃を楽しむことができます。

会員の皆様もぜひ足をお運びいただき、屋外の清々しい風を感じながら、ご鑑賞されてはいかがでしょうか。



徳島大学助産教育創設 60周年記念式典・記念祝賀会開催予定

徳島大学での助産教育は、次年度(平成29年度)に創設60周年を迎えることとなりました。現在、準備委員会を立ち上げ、記念式典及び記念祝賀会の開催に向け、準備・企画を進めております。

同窓生の皆様の多数のご賛同とご参集をお願いし、ご案内させていただきます。

● 徳島大学助産教育創設60周年記念式典・記念祝賀会開催予定日：平成29年10月7日(土)

徳島大学大学院医歯薬学研究部助産学分野 教授 葉久真理
 メールアドレス haku@medsci.tokushima-u.ac.jp

徳島大学助産教育創設60周年記念式典・記念祝賀会 実行委員長 竹内美恵子
 メールアドレス super-ad@tokushima-u.ac.jp

同窓生通信

組織のトップマネージャーとして



徳島大学医学部附属看護学校32期生
徳島大学病院

高開登茂子



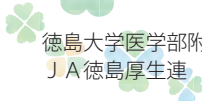
「志定まれば気盛んなり」幕末の思想家吉田松陰の、この言葉を毎朝眺めています。これは、夫が、いろいろな名言・格言をシーラーしてトイレの壁に張ってくれている中の一つで、一番私の大切にしている言葉です。

前回、同窓生通信でおじゃましたのは、2011年の第11号で、感染管理認定看護師として感染対策室で勤務をしている時でした。やりがいを見つけ、一度退職した徳島大学病院への帰属意識も高まり充実した日々を送っていたと思います。それから5年で、また大きな人生の転機を迎えました。看護部長という自分では予想しなかった道、この社会情勢の大きな変化の中で、厳しい判断や選択を迫られるトップの位置に進むことを決めなくてはいけなくなった時、まさにこの境地に至りました。や

るしかない、やろうという決心があれば、何事も必ず実現されるということ、全力を尽くすことが自分の与えられた使命なのだと思います。そういう努力を積み、周りも一緒に力を貸してくれるようになるんだと、この言葉を見る度、気持ちを新たにしています。

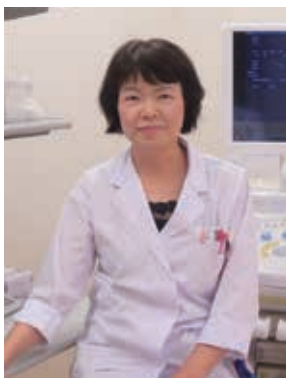
「看護師という道を選び、その組織の頂点に立ち自分の思いを実現できるのであれば、それはすばらしいこと、やりたいと思っても誰もができることではない。」との夫や義母の言葉に後押ししてもらい、患者さんの「生きる力」を引き出し、優しく温かい信頼の看護を実践する…そんな看護部を目指しています。今年は、認定看護管理者をめざすべくサードレベル研修に参加し、自分の弱い部分である経営管理論や組織論等を学んでいます。看護部長として、自分のビジョンや方向性を明確に語り、その実現に向けてヒト・モノ・カネ・情報を戦略的に用い、強い信念で臨むことができるブレない人に、また、その過程（プロセス）と結果（アウトカム）についてしっかりと責任を担える人になりたいと考えています。日々学ぶことばかりですが、理想のトップマネージャーを目指し、「気盛んに」取り組んでいきます。

麻植協同病院から 吉野川医療センターへバトンタッチ



徳島大学医学部附属臨床検査技師学校4期生
J.A徳島厚生連 吉野川医療センター

藤川 恵子



私の勤務する病院は、昨年、吉野川遊園地跡地へと新築移転し、名称も麻植協同病院から吉野川医療センターへと改称しました。敷地に隣接して全国名水百選にも選ばれている江川湧水源があり、そこから敷地内を流れる江川やほとりの桜並木、最上階から望む吉野川など風光明媚な環境に恵まれ、患者様にも好評のようです。

新病院では、ERの充実や災害時拠点病院としての機能強化を図り、また、医師増員により懸案となっていたお産の再開や休日の小児科外来、耳鼻咽喉科の常勤化など診療体制を充実し、2次救急病院・地域医療支援病院としての役割を果たすべく努めています。

診療体制の充実により、検査科においては新規検査項目の

取り込みや、検体数の増加など、仕事量が漸増していますが、迅速で正確なデータを出すべく、全員一丸となって日夜頑張っています。

私は当院入職後、細菌・血液・輸血・化学・一般・血清検査など経験後、現在は生理検査全般を担当しています。10年程前からは腹部超音波検査を勉強し始め、徐々に甲状腺などの表在・頸動脈・下肢静脈・乳腺とレパトリーを増やしてきました。乳腺超音波検査は、新病院になって乳腺専門外来が開設され、乳房切除後の同時乳房再建術も可能になったこともあり、受診者が増えてきましたが、見逃しの無いように最も気を遣う検査でもあります。

定年まで僅かとなりましたが、今後は後継者の育成にも力を注ぎ、次の世代にうまくバトンタッチ出来ればと思っています。



眉山の麓で学びし友よ、いざ繋がらん!!

徳島大学医学部附属診療放射線技師学校11期生
公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院

小阪 清志

振り返れば眉山の麓の放射線技師学校に入学してから約40年になろうかとしております。その間沢山の恩師、先輩、後輩に恵まれ中でも全員が現役入学であった我々11期生(昭和55年度卒)の面々との繋がりは私の人生の大切な宝物です。

繋がりとはい思議なもので一度繋がると次から次へと広がります。卒業後地元大阪に戻り就職し、恩師や先輩の紹介で3つ下の阿部君(昭和58年度卒:大阪府立母子総合医療センター)と繋がり、更に3つ下の中前君(昭和61年度卒:奈良県立医科大学付属病院)と繋がり、食事会などで徳島を懐かしんだり、あるいは研究で行き詰まっていることを相談したり、解析のお手伝いをお願いしたりと職場での人間関係とは違う充実した日々がスタートし、学会などでは恩師を囲んでの飲み会などで新たな繋がりが雪だるま式に広がります。

口コミで行っていた卒業生の食事会も人数が増えだし、近畿圏の卒業生を調べてみると、100名近くが就職していることが判り、有志でOB・OGの集いの場「藍眉会」(あいびかい)を立ち上げたのが1999年11月の事で、まもなく20年を迎えます。

「藍眉会」は徳島大学の放射線関係(技師学校・

医短・大学)の卒業生が情報交換を行う集いで、初回は5年に1度の開催としておりましたが、2回目の開催で連絡が取れないケースが出たことから2回目以降は毎年開催としております。また現在は宇都会長(昭和49年度卒:近畿大学医学部附属病院)の方針で学術とレクリエーションを春と秋に開催する事として今日に至っております。

現在、近畿圏には200名もの卒業生が働いており情報交換の集いのみならず、在校生への就職情報の提供にも力を入れております。最近では近畿圏以外の方の参加も呼びかけておりますので、ご興味がございましたら藍眉会で新しい繋がりの機会を持ちませんか?

まずは第1歩として事務局の私宛にメール(BXP04722@nifty.ne.jp)をお願い致します。

「藍眉会」のFacebookのURL

(URL: <https://www.facebook.com/AibiKai.1999>)



希望を地域につなぐ在宅支援

徳島大学医学部附属看護学校27期生
徳島大学医学部附属助産婦学校22期生
徳島大学病院

杉原 治美

昭和54年に助産婦学校を卒業後、徳島大学病院に就職し早くも退職を迎えようとしています。睦眉会の皆様には7月まで助産師副会長・会報委員として大変お世話になりました。



私は助産師として分娩部で9年間、育休後に呼吸器内科病棟で看護師として5年間勤務しました。その後また、助産師として産婦人科病棟や外来、NICUを経験後、看護師長として助産師の免許を持つ看護相談員として17年間相談業務を行っています。

徳島大学病院しか知らない時に、看護協会の助産師職能委員長として、保健師・助産師・看護師三職能で先駆的保健活動として「地域から施設へ・施設から地域へのネットワークづくり」を行いました。このことが多職種連携の始まりで、院外の多くの方々との出会いがあり、視野を広げることができました。

看護相談員・退院調整看護師として継続診療・看護相談室から現在の患者支援センターに何度も改組による名称変更がある中で、相談業務の役割を果たすために、放送大学で生活と福祉を学び、社会福祉士や介護支援専門員の資格も習得しました。NICUの未熟児の退院支援から始まり、遺伝相談、がん相談・難病相談に拡大し、「指導から支援へー自分の生活していた場所へ笑顔で帰っていただくために希望を地域へつなぐー」このコンセプトのもと日々仲間と業務に励んでいます。「おギャあと生まれてから死を迎えるまで、昔の産婆さんのように家族や地域の相談者になりたい」これが、就職した時からの目標でしたが、病院での経験が何ひとつ無駄のない貴重な学びであったと感謝しております。退職後には、実現に向かって進んでいきたいと願っておりますので、今後とも皆様のご指導・ご支援の程よろしくお願い致します。

活躍する卒業生

徳島大学ホームページ、同窓会連合会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。



船戸 豊子
ふなと とよこ

徳島大学医学部附属助産婦学校
昭和47年卒業
元徳島大学病院看護師長
一般社団法人徳島県助産師会監事
船戸助産所所長

昭和47年に徳島大学医学部附属助産婦学校をご卒業後、徳島大学病院に就職されました。分娩部で助産師として、また、小児科外来・小児科病棟、周産母子センターで看護師長として勤務され、多くの助産学生・看護学生の臨床実習指導にも力を注いでくださいました。

徳島大学病院にNICUの後方病床（GCU）、母体・胎児集中治療管理室（MFICU）が新設され、県内唯一の総合周産期母子医療センターが開設される際には、その立ち上げにご尽力されました。また、周産期からの虐待1次予防システム作りや院内助産システム開設準備など、病院内の様々なシステムの基盤整備にも取り組まれました。

退職後は、船戸助産所を開設し、訪問による助産業務を中心に地域の母子の支援を行うとともに、徳島県助産師会の監事として活躍されています。

このような長年のご功績が評価され、平成25年3月には、第41回医療功労賞の全国表彰並びに厚生労働大臣賞を受賞されました。



稲井 芳枝
いない よしえ

徳島大学医学部附属看護学校
昭和52年卒業
元徳島県保健福祉部健康増進課長
公益社団法人徳島県看護協会常任理事

昭和52年に徳島大学附属看護学校卒業、昭和53年に京都府立保健婦専門学校卒業後、徳島県に入庁し、38年間保健師として勤務されました。

勤務先としては、保健所が主な職場でしたが、それ以外にも児童相談所・女性支援センターでも勤務し、県庁では医療政策課看護担当、感染症疾病対策室、健康増進課と「保健師のパイオニア」として、様々な勤務場所で保健師の専門性を活かして幅広く活動されました。今では保健所以外の多くの職場で保健師が勤務されています。

退職後は、公益社団法人徳島県看護協会の常任理事として、教育と研鑽に根ざした専門性に基づき看護の質の向上を図る等、看護職能集団として力を発揮するとともに、県民に信頼され親しまれる看護協会を目指して活躍されています。

最近では退職後も引き続き活躍される保健師は「プラチナ保健師」と呼ばれていますが、今後も、「プラチナ保健師」として社会貢献したいと精力的に取り組まれています。

徳島大学大学院保健科学教育部主催公開シンポジウム およびロクシン教授・谷岡教授主催の 第一回国際セミナー・ワークショップの報告

徳島大学医学部保健学科長・徳島大学大学院保健科学教育部長 近藤 和也

徳島大学医歯薬学研究部保健科学教育部主催の公開シンポジウムが、徳島市のホテル千秋閣にて、2016年8月28日(日)に開催されました。日本、オマーン、フィリピン、サウジアラビアから総勢49名の参加者があり、徳島大学学長、野地澄晴博士の開会のあいさつを頂きました。

シンポジウムの総司会は安原准教授が務めました。

「がん患者のための先端治療と質の高いチームケア」に関するシンポジウムの座長は、近藤教育部長が担当し、第一線で活躍する先生方にご講演頂きました。



①低侵襲手術—胸腔鏡下手術とロボット手術(徳島大学大学院医歯薬学研究部 胸部・内分泌・腫瘍外科学分野 准教授 滝沢 宏光)、②肺がんに対する最新の分子標的治療(徳島大学大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野 准教授 埴淵 昌毅)、③先端放射線治療(徳島大学大学院医歯薬学研究部 放射線治療学分野 教授 生島 仁史)、④外来化学療法と患者ケア(徳島大学病院 外来化学療法部門 師長 三木 幸代)、⑤がん

と診断された時から始まるがんサバイバーシップ(徳島大学病院 看護部 看護師長 笹井 知子)、⑥がん患者のソーシャル・サポート(徳島大学病院 患者支援センター 医療ソーシャルワーカー 福田 直也)。いずれも、良質な医療サービスを向上させる素晴らしい内容でした。

シンポジウムの演者の保健科学教育部の生島仁史教授は、放射線治療技術学分野の教員であり、

優れた臨床家です。また、三木さん、笹井さんは保健科学教育部の卒業生であり、第一線で活躍しています。

2014年に着任したRozaano Locsin看護技術学分野教授(フロリダアトランティック大学名誉教授)による特別講演、「現代医療におけるテクノロジーとケアの融合」は、谷岡哲也教授が座長を担当しました。

この講演では、ロクシン教授の実践理論である「看護におけるケアリングとしての技術力」に基づいて、講演が行われました。谷岡教授はロクシン教授と12年前から交流があり、ロクシン教授の看護理論は谷岡教授らによって翻訳出版されています。http://www.296.jp/books/data_books/t1460528158/index_html



シンポジウムは苛原稔医学部長の開会の辞により大盛況のうちに終了しました。

シンポジウムに引き続き、同ホテルにて19時からロクシン教授のセミナー・ワークショップのウェルカム・レセプションが催され、睦眉会同窓会長の河田明男氏も参加していただきました。

翌日の8月29日には、同ホテルに於いてロクシン教授の中範囲看護理論(www.facebook.com/RLIATTCNN/)を推進するための第一回国際セミナー・ワークショップが行われました。国内外からの参加者の9割がセミナー受講の目標を達成できたと評価しました。

世界的に著名な看護のヒューマン・ケアリングの理論家であるロクシン・ロザーノ教授が保健科学教育部にいらっしゃることは、当教育部の発展にとって非常に喜ばしいことであり、今後、さらなる発展が期待されます。





齋藤史郎先生をしのんで

徳島大学大学院医歯薬学研究部

細胞・免疫解析学分野 教授 細井 英司

齋藤史郎先生が、平成28年2月19日に85歳でお亡くなりになりました。皆さんご存知の通り、齋藤先生は東京大学大学院を修了後、東京大学医学部附属病院助手を経て、1972年徳島大学教授、医学部附属中央臨床検査部長として赴任され（医学部保健学科前身の医学部附属臨床検査技師学校校長を併任）、その後医学部内科学第一講座教授に就任され、医学部附属病院長、医学部長を歴任、さらに1997年から2期6年間、学長として徳島大学の発展に尽くされました。この間、特に医療技術短期大学の設置や徳島大学医学部保健学科の改組にもご尽力して頂きました。また、退職後は徳島健祥会福祉専門学校校長に就任され、徳島県の介護医療の発展にも貢献されました。

齋藤先生は、私が24歳の時からの上司・恩師であり、また私の結婚式の仲人もして頂き、公私ともにいろいろとご指導頂きました。現在の私があるのは、齋藤先生のおかげと日ごろから感謝しております。齋藤先生は心が広く、穏やかで、物事の本質を的確にとらえ、私にとっては上司ではありませんでしたが、時には第二の父のように、この35年間いろいろとお教え頂きました。齋藤先生との初めての海外は、カナダであった国際内分泌学会であり

ましたが、学会の合間では上司という関係以外の顔を見せて頂きました。印象的であった出来事としては、アイスクリーム、しかも3段重ねを買い求め、2人で街を散策した思い出であり、齋藤先生の人柄を垣間見せる出来事でありました。退職後は、時折電話があり、私の研究室に立ち寄っていろいろなお話をしていたことも思い浮かびます。また、私も論文や原稿などのご高閲をつい最近までして頂いておりました。まだまだ、お元気でいろいろなお話やご指導を頂ければと思っていたので、大変残念に思っております。

最後になりますが、齋藤先生が刊行された「陽はのぼり人はゆく」（徳島出版株式会社、定価1,500円）という本をご存じでしょうか。徳島大学長在任中での式辞・挨拶・講義、大学人の一人として努めてきたこと、自分史のミニ版、折にふれて「思うこと考えること」が記述されています。多くのことが書かれたものであり、それぞれの立場で参考になるものと思います。是非、一度手に取ってみたい1冊です。



中村観善先生、「第九」を忘れません

徳島大学睦眉会理事（事務局）

徳島大学医学部附属臨床検査技師学校4期生 梅野 真由美

中村観善先生は、平成28年9月23日に80歳で永眠されました。突然の訃報に驚き悲しみました。住職をされていたご自宅の「観音寺」で営まれた通夜・告別式には、多くの卒業生も参列し、慕われていたお人柄が偲ばれました。本当に安らかなお顔で、眠られているかのようにでした。中村先生がご指導されていたという檀家の皆様のご詠歌につつまれ、お別れいたしました。

中村先生は、大阪大学大学院修了後、微生物の研究をされておりましたが、昭和40年4月に、徳島大学医学部附属衛生検査技師学校の専任講師にご就任されました。昭和47年には、臨床検査技師学校の専任講師となられ、医療短大の設立にご尽力されました。平成元年には、徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科の教授にご就任されました。平成13年3月に定年退官され、4月からは徳島大学名誉教授となられました。平成13年10月に設置された4年制大学である医学部保健学科の設立には、多大な貢献をされました。

私にとって中村先生は、昭和50年に臨床検査技師学校に入学してからの恩師であり、昭和54年に臨床検査技師学校に勤務してから、平成13年までの医療短大時代の上司でもあり、いろいろご指導いただき大変お世話になりました。いつも笑顔でおおらかなお人柄でしたが、実は熱い理想をお持ちで何事にも熱心に取り組まれる、学生思いの優しい先生でした。

中村先生のご専門は微生物学であり、微生物学の講義や実習でご教授いただきましたが、私達卒業生にとって一番に思い出すのは、ベートーヴェンの「第九」ではないでしょうか。新入生歓迎茶話会では、中村先生や先輩方全員の「第九」で迎えられ、驚きと感動を鮮明に覚えています。そして、授業前や休講時には、中村先生がアコーディオンを抱えて来られ、「第九」の練習が始まりました。卒業時の茶話会や謝恩会、同窓会などでも、いつも最後には、中村先生のアコーディオン伴奏のもと、全員での「第九」合唱で締めくくられました。また、私が6年前から参加している、鳴門の「第九」演奏会にも、奥様と一緒に数回聴きに来ていただき、「良かったよ。」というお言葉に感激したものでした。もう中村先生と「第九」を歌うことはできず、寂しさが込み上げてまいります。私達のことを見守って下さっていることと思います。本当にありがとうございました。



『中村先生、私達卒業生は、決して「第九」を忘れません！』

平成28年度 徳島大学睦眉会総会報告

平成28年7月3日(日) ホテルクレメント徳島 4F

【日 程】

- 1. 平成28年度睦眉会総会 10:00 ~ 10:30
- 2. 第11回睦眉会主催講演会 10:30 ~ 12:00
 演題 「阿波の人形浄瑠璃」
 講師 瀧山 雄一 先生 (徳島市立徳島城博物館長)
 ※参加者は、31名(会員30名、一般1名)でした。

総会次第

- 1. 開会
- 2. 会長挨拶
- 3. 名誉会長(保健学科長)挨拶
- 4. 議事
 - (1)平成27年度事業報告
 - (2)役員会報告
 - (3)平成27年度会計報告
- 5. 議案審議
 - (1)平成28年度予算案、事業計画案について
 - (2)役員改選案について
- 6. その他
- 7. 閉会
- (4)会計監査報告

平成27年度 事業報告

- 1. 入学式出席(会長).....平成27年4月6日
- 2. 睦眉会主催 新入生歓迎昼食会の開催.....平成27年4月6日
- 3. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター(活躍する卒業生)掲載.....平成27年4月、9月
- 4. 総会の開催(役員会で総会に代える).....平成27年7月9日
 (参加者 役員23名)
- 5. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他4名).....平成27年10月22日
- 6. 徳島大学同窓会連合会交流会「近畿びざん会(大阪)」への出席(会長).....平成27年11月15日
- 7. 睦眉会会報(第15号)の発行.....平成27年12月17日
- 8. 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長他).....平成28年3月23日
- 9. 卒業・修了記念品の贈呈.....平成28年3月23日

役員会報告

1. 役員会開催状況(平成27年4月~28年7月)

年度	回数	開催日	場所	参加人数
H. 27	1回	総会開催(役員会) 平成27年7月9日(木)	医学部第二会議室	23名
	2回	平成28年2月10日(水)	医学部第二会議室	18名
	3回	平成28年3月16日(水)	医学部第二会議室	18名
H. 28	1回	平成28年6月17日(金)	医学部第二会議室	27名
	2回	総会開催 平成28年7月3日(日)	ホテルクレメント徳島	30名

2. 各種委員会開催状況

委員会名	開催日	場所	参加人数
会報委員会	平成27年9月3日(木)	医学部第二会議室	12名
	平成27年10月1日(木)	医学部第二会議室	14名
	平成27年11月2日(月)	医学部第二会議室	12名
	平成27年11月17日(火)	睦眉会事務局	3名
学術・名簿委員会	平成28年5月16日(月)	医学部第二会議室	5名
ホームページ委員会	随時		3名

3. 役員会・委員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会・講演会について
- 2) 睦眉会役員改選について
- 3) 同窓会会員名簿の配布について
- 4) 睦眉会会報の発行について
- 5) 睦眉会の役員の委員会活動について
- 6) 徳島大学同窓会連合会への協力について
- 7) ホームページの運用について
- 8) 新入生歓迎昼食会開催について
- 9) 卒業・修了記念品について

● 平成27年度 睦眉会会計報告

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

【収入の部】

項 目	金 額
本部会費（144名分）	2,880,000
貯金利子	627
繰越金	3,948,445
収入合計	6,829,072

【支出の部】

項 目	金 額
総会費用	27,200
印刷費・送料（会報代を含む）	1,073,372
会議費	271,629
慶弔費（入学卒業記念品、退職教員記念品代を含む）	589,897
雑費	88,464
会報委員会活動費用	62,808
事務局運営費	200,000
予備費	4,515,702
支出合計	6,829,072

【収支決算の部】

総収入額	総支出額	次年度繰越額
6,829,072	2,313,370	4,515,702

平成28年3月31日 会計 竹林 桂子

会計監査報告

平成27年度の会計報告書を監査いたしました。

会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。

平成28年 6月17日

監事 後藤美弥子
手塚 健一

* 以上の報告事項は、すべて承認されました。

● 平成28年度 睦眉会予算

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

【収入の部】

項 目	金 額
本部会費（142名分）	2,840,000
貯金利子	500
前年度繰越金	4,515,702
収入合計	7,356,202

【支出の部】

項 目	金 額
総会・講演会費用	300,000
印刷費・送料（会報代を含む）	1,300,000
会議費	300,000
慶弔費（入学卒業記念品、退職教員記念品代を含む）	600,000
雑費	100,000
会報委員会活動費用	70,000
事務局運営費	200,000
予備費	4,486,202
支出合計	7,356,202

* 予算案は、提案通り可決されました。

● 平成28年度 事業計画

1. 新入生歓迎昼食会の開催 平成28年 4月 6日
2. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター（活躍する卒業生）掲載 . . . 平成28年 4月、9月
3. 平成28年度総会・第11回講演会の開催 平成28年 7月 3日
4. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他) 平成28年10月20日
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「関東びざん会」への出席(会長 他) . . 平成28年12月 4日
6. 睦眉会会報の発行 平成28年12月頃の予定
7. 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長 他) 平成29年 3月23日
8. 卒業・修了記念品の贈呈 平成29年 3月23日

* 事業計画案は、提案通り可決されました。

平成28・29年度 徳島大学睦眉会新役員

(2016年7月3日～)

役 職		氏 名	所 属	勤 務 先
名誉会長		近 藤 和 也	学科長	徳島大学医学部保健学科長 (徳島大学大学院医歯薬学研究部)
会 長		河 田 明 男	放	三船病院
副会長		岩 佐 京 子	看	徳島大学病院
		川 田 直 伸	放	徳島大学病院
		江 原 隆	検	徳島市民病院
		森 内 洋 美	助	徳島大学病院
理 事	事務局	梅 野 真由美	検	
		富 永 辰 也	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部
	会 計	竹 林 桂 子	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		桑 村 由 美	看	徳島大学大学院医歯薬学研究部
	総 務	富 永 正 英	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		安 藝 健 作	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部
理 事		葉 久 真 理	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部
		佐 藤 ゆかり	看	徳島大学病院
		長 谷 奈生己		徳島大学病院
		米 田 好 美		徳島市民病院
		岩 野 朝 香		徳島大学病院
		飯 藤 大 和		徳島大学大学院医歯薬学研究部
		千 葉 進 一		徳島大学大学院医歯薬学研究部
	富 澤 栄 子	四国大学看護学部		
		天 野 雅 史	放	徳島大学病院
		山 田 健 二		徳島大学病院
		山 岡 哲 也		徳島県立中央病院
		佐 藤 雅 美	検	徳島大学病院
		岡 本 充 栄		徳島大学病院
		嶋 田 啓 司		徳島連立保健製薬環境センター
上 田 美 香		助		徳島大学病院
監 事		中 道 玲 子	助	
		吉 田 知位子	検	徳島県立中央病院

後藤美弥子さん、手塚健一さん、お世話になりました

長年、私たちの同窓会「睦眉会」を支えて下さった、後藤美弥子さん（看護学校10期生）、手塚健一さん（衛生検査技師学校1期生）が、平成28年度の総会をもって役員を引退されました。

後藤さんは、平成7年の同窓会設立準備委員会からご尽力いただき、初代会長として4年間就任され、計21年間睦眉会役員として貢献されました。手塚さんは、2代会長として4年間、計16年間役員として活躍されました。また、この「睦眉会会報」の発行にあたりまして、お二人には会報委員として多大なご尽力をいただきました。後進のために開拓してくださった道を閉ざすことなく、受け継ぎ、発展させていきたいと睦眉会役員一同、心新たに思っております。本当に長い間お世話になりました。今後も、睦眉会の会員として私たちを見守ってくださいますようお願い致します。



徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報並びに本学ホームページを御覧ください。
また、会員の皆様の御意見や御要望をお寄せください。

徳島大学総務部総務課 (Tel:088-656-7021 Fax:088-656-7012)
E-mail: kohokakaricho@tokushima-u.ac.jp URL:http://www.tokushima-u.ac.jp/



I 学内の状況

1 徳島大学病院 新外来診療棟開院記念式典を挙

平成27年9月11日、徳島大学病院は新外来診療棟開院記念式典を挙行了しました。

徳島大学では、平成15年に医学部附属病院と歯学部附属病院が統合されましたが、これまで内科・歯科診療部門は別々の建物にありました。新外来診療棟の完成により、大学病院の内科・歯科診療部門が一体となったことで、今後より一層の連携強化が期待されます。

新外来診療棟は9月24日に開院し、外来診療を開始しました。

2 大村 智 北里大学特別栄誉教授ノーベル生理学・医学賞受賞記念 第9回共同利用・共同研究「酵素学研究拠点」シンポジウムを開催

平成28年3月7日、徳島大学疾患酵素学研究センターは、北里大学薬学部コンベンションホールにおいて、共同利用・共同研究を進めている北里大学北里生命科学研究所とともに、大村智北里大学特別栄誉教授ノーベル生理学・医学賞受賞を記念して、「酵素学から始まる新たな創薬研究」をテーマに第9回共同利用・共同研究「酵素学研究拠点」シンポジウムを開催しました。

シンポジウム終了後には、大村特別栄誉教授を交えて意見交換会を開催し、「偉大な発見と研究成果は、学問の境界領域から生まれる。北里生命科学研究所と徳島大学酵素研との共同研究は、まさに天然物有機化学と酵素学の境界領域から新たな学問と社会に貢献する研究成果を生み出す大変意義ある取り組みであり、今後ますますの発展を期待したい」と大村特別栄誉教授のご挨拶を頂き、若手研究者を交えて有意義な交流の場となりました。

3 学部新設・改組及び新研究所等設置記念式典を挙

平成28年4月11日、徳島大学は平成28年4月の組織改革を記念する式典を徳島市内のホテルで挙行了しました。徳島大学の組織改革は、本学の強みである「生命系・理工系」をさらに伸ばすとともに、地方創生を牽引する人材を育成するため、全学的な学内資源の再配分により、「生物資源産業学部」の新設、「総合科学部」を社会科学系に特化した学部へ改組、工学部を「理工学部」へ改組、基幹教養教育を担う「教養教育院」の新設、さらに、特色である生命科学の研究機能を強化するため、4センターを統合した「先端酵素学研究所」を設置するもので、この再編により、本学は、常三島キャンパスに総合科学部、理工学部、生物資源産業学部の3学部、蔵本キャンパスに医学部、歯学部、薬学部の6学部体制となります。

4 徳島大学医学部訪問団がモンゴル国立医科大学を訪問

平成28年8月24日から8月28日にかけて、苛原 稔医学部長を団長とする徳島大学医学部訪問団（教職員9名、医学科生5名）がモンゴル国立医科大学を訪問しました。医学部とモンゴル国立医科大学の部局間交流協定は2005年に締結され、2006年から学生交流（相互訪問、サマーセミナー、ホームステイ等）が開始されました。以後10年あまりにわたり活発な交流が続いています。

訪問団は各施設を視察するとともに、急速に発展するモンゴ

ル国立医科大学と今後更に緊密に連携し、新しく建設される教育病院や医学部の人材育成にも協力すること等で合意しました。

また、徳島大学を修了した同窓会（MAUTA）のメンバーとも旧交を温めあいました。修了生は、モンゴル国立医科大学や市内の総合病院等で活躍し、徳島との架け橋となっています。修了生を中心とした交流も今後更に活発になることが期待されます。

II 学生関係

1 入学式

平成28年4月6日、アスティとくしまで平成28年度入学式を挙行し、合計1,909名（学部1,327名、大学院修士（博士前期）課程452名、大学院博士（博士後期）課程95名、3年次編入学35名）の入学が許可されました。

入学式では、入学生を代表し、薬学部の木村有希さんから宣誓があり、引き続き、野地学長から「世界に眼を向けて、自身が世界のどのような問題に関与するのかを明確に示すMy Visionを持ち、それに向かって教育を受け、研究に取り組んでください」とのお祝いの言葉がありました。その後、在学生を代表して、歯学部の吉永 薫さんから「人と人との繋がりを大切に、臆することなく色々なことに挑戦してってください」と歓迎の言葉がありました。

編集後記



先日、布団カバーを付けていたところ、妻にカバーの内側四隅には紐、布団の四隅にはリングがあることを教えてもらった。この40年どこに目を付けていたのだろうと落胆しつつも、こいつは見えないところでしっかり仕事しているなあと嬉しくなりました。



会員の皆様は、徳島大学の同じクラスで同じように学びましたが、卒業後は同じ職種でも全く違う環境で活躍されています。会報を通じて、「えっ、そんなこと知らなかった」という専門的な話や挑戦されている話を拝見しますと、たいへん刺激を受け活気が生まれます。

正直、睦眉会の役員になる前は、あまり同窓会を意識しない不届き者でした。しかし今では、年齢・職種が違っても会員の皆様と繋がることは、個々の見識が広がり成長するのではないかと感じています。これからは、見えないところで繋がる布団カバーの紐のように、会員の皆様と同窓会をしっかりと繋げられるように活動していきたいと思っています。

最後に、私たち検査技師卒業生は、中村観善先生の笑顔とアコーディオン演奏を忘れることはありません。中村先生ありがとうございました。Hallelujah

睦眉会理事 畠永 辰也